

私の内に生まれた救い主

ブロックアドバイザー 大兼久芳規



「キリストが私のうちに生きておられるのです。」

（ガラテヤ2章20節）

*

クリスマスは、主イエスがこの世に来てくださったことを覚えるときです。それは旧約の時代から、来臨が預言されてきました。しかし、人々はその救い主の到来を願いつつも、主が来られた時には、その来臨に気づかず、祝うことはありませんでした。ただ少数の羊飼いや周りの人たちが、主を喜びました。

二千年がたち、私たちがこのクリスマスを祝い、主の来臨を喜びます。主イエスは、飼葉おけの中に生まれてくださったように、私の心の中に誕生して下さり、新型コロナと戦う私たちの生活の中に入ってきてくださるお方です。

この年は感染対策との戦いに、奔走した一年でした。幸いなクリスマスの時期ですが、今年は対外的に大きなプログラムが難しい状況です。私たちの大切な使命である宣教のわざも、阻められているような思いになります。

秋の各地の教会会に参加させていただき、その報告の中で気づかされたことがあります。それは礼拝を毎週、教会で持つことさえ難しいような状況にもかかわらず、いくつもの教会に新来会者が与えられていることです。大きな集会、対外的な案内などができない時期にもかかわらず、世の人が教会に心を向けること、変わりは無いということです。

春から新型コロナウイルスへの対策が、世を挙げて行われていますが「先が見えず、解決の手段が分からない、その対応も先へ進まず、変わりやすい。」そのような中、人々は「人間は弱い存在である。人には解決し得ないことがある。科学は進んでも、人間には限界がある。」そのような思いになっています。

しかし、この心とたましいを落ち着かせてくれるところはないのかと、解決を国でも、人でもなく、教会により確かな、変わらない、永遠に変わらないものを探しているのを感じます。

今回の新型コロナも、しばらくすれば一定の終息を見ることができるといえるでしょう。しかし、真の心の平安の土台は「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」と言われるお方に会おう時に、たどり着くことができます。

この年のクリスマスは、きれいな飾りも一部だけとなり、教会のプログラムも例年のように、十分には行えないかもしれません。しかし神の伝道の働きは、この年も阻められていません。

小さくとも主の前に、常の営みを続けましょう。その時、人々はこの慌ただしかった年の締めくくりに、馬小屋で生まれてくださった主イエスにお会いすることができるといえるでしょう。そして私たちが救われた者たちも、このコロナとの戦いの中に主と主のみわざを見出し、この年を締めくくることができたら、初めに主の誕生を迎えた人々と同じ歩みをする事ができます。

目次

- 私の内に生まれた救い主……大兼久芳規……1
- コロナ禍のクリスマス、第22次総会のご案内……2
- 教団運営委員会から、信徒局、関東聖化大会……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、思い巡らし……4
- コロナ禍にある教会は、厚生委員会から……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

コロナ禍の中で迎える

2020年のクリスマス 恵みを思い巡らす時に



国内教会局長 岩上祝仁

あらゆることが変化した状況の中でいつものクリスマスならと考えてしまいます。いつものようではない、今年だからこそ静かに思い巡らすクリスマスを過ごせるのではないのでしょうか。

最初のクリスマスは静かで、穏やかで、人知れずに主イエスは誕生されました。そして主の恵みと救いの喜びに溢れていました。一連の出来事を体験した母マリアはこれらの出来事に真正面から向き合いました。

まず彼女はこの出来事を「心に納め」ました。しっかりと現実として受け入れたということですね。聖霊による妊娠、夫ヨセフとの結婚、主イエスの出産だけでなく、多くの人たちや御使いまでもが喜んだ、誕生に関わるすべてを受け入れました。このように「心に納める」ことが私たちも今、必要ではないでしょうか。いつもとは異なり、コロナの現実、教会の現実、そして社会の現実、受け入れ

にくい時だからこそ、まず心に納めましょう。神を見上げて、真正面から現実を受け止めるところからすべてが始まります。

次にマリアは、心に納めるだけでなく「思い巡らし」ました。受胎告知から御使いたちの賛美に至るまで、神の御業がなされたことの意味と意義を思い巡らしたことでしよう。神のなさる不思議を思い、その中に自分も役割が与えられ、用いられたことを感謝し、さらにはここから始まる主の救いの御業に思いを向けたことでしょうか。この思い巡らしこそが、その後の生涯への備えとなつて行きました。

救い主の母として子育てに当たる、普通では考えられないことに取り組んだ母マリアでした。思い巡らしは神の恵みだけでなく、その後の多くの試練への備えでもありました。ベツレヘムの虐殺を逃れてエジプトへ避難したこと、ナザレでの生活、夫ヨセフとの死別、これらの試練にマリアが耐え得たのは、神の恵みに信頼し、信仰と献身を新たに主の母として生きることを決意した、心備えとしてのこの思い巡らしがあつたのです。

コロナ禍で普段とは異なるからこそ、恵みを思い巡らす特別な機会が与えられています。クリスマスに現された神の恵みとご聖誕の意味を思い巡らしながら、ウィズ・コロナの新しい時代に相応しい信仰を与えられたいと思います。コロナ禍にあつても、恵みに溢れたクリスマスとなりますように。

国内教会局

運営委員会から 制約下の教会活動 対応策を検討

BA 阪下 謙

国内教会局運営委員会では全国の教会の現状や課題、またその解決への道筋やサポートなどさまざまな事が討議されます。

今回は、コロナウイルス感染の影響下での教会活動について、宣教研究部からの全国のアンケートがあり、その結果とともに各B/Aの報告に基づいて、現状ではどのように伝道ができるのか、濃厚接触が控えられる中、交わりが希薄になっている教会の対処など、なかなか答えが出にくい問題ですが、国内教会局としてどのように対応すべきかが話し合われました。

集まることのできない教会では、インターネットを用いての礼拝がなされています。また、ほとんどの教区がNODDで教区会を持ちました。そこで各教会にインターネットができる環境の必要性が生じています。ホームページやモート会議ができるようにするためのサポートを国内局でも考慮しています。

コロナ禍での教会総会をどのように持つべきかということも難しい問題です。早急に国内教会局でまとめ、提案をさせていただく予定です。

第22次教団総会について

2021年2月11日(木) 短縮して開催します

総務局長 寺村秀嗣

・ 京浜急行品川駅から徒歩8分
・ コロナ対策、インターネット環境も整備されています。

■ 総会議事 13時〜20時
・ 条例改正審議

・ 第21次総会期報告
・ 代表選挙、代表按手式

・ 局長等選考委員会
・ 第22次総会期方針提案

・ 新教団運営委員発表
・ 常置委員長、責任役員は後日選任

■ 総会招集状を11月中旬に各代議員の皆様に発送いたしました。

■ 代表予備選挙はすでに行われ、年明け1月号の教報に代表候補者が発表されます。

■ 総会当日行われる代表選挙についてはコロナ禍の影響で、これまでと異なる対応が求められる可能性も十分ありますので、選挙に関する実務規定の変更を行い、代表選挙が滞りなく行われるように準備を進めております。

■ コロナウイルスの感染状況の推移を注意深く判断しながら、今後の総会準備を進めてまいります。

■ なお、第76次年会（今年度の予定表では来年3月24日〜26日開催）につきましては、教役者が全国から集まり、宿泊・食事をする状況に照らし、十分なコロナ感染症対策をすることは困難であると判断いたしました。たいへん残念ではありますが、第76次年会は3月25日（木）にオンラインで開催します。議事を中心とする縮小されたプログラムとなります。総会、年会のためお祈りください。



品川駅港南口は新幹線ホーム側の出口です。京浜急行品川駅の反対側になります。お気をつけください。

■ 来年は教団の第22次総会を迎えます。コロナ禍の中、これからの感染の動向を見据えながら、当初予定していた一泊二日での開催は見送り、一日のみの開催といたします。

■ 第22次総会
日程・2月11日（木・祝日）
会場・フクラシア品川クリスタル（港南）（会議室G）（東京都港区港南1-6-41 品川クリスタルスクエア3階）

・ JR品川駅港南口から徒歩8分

教団運営委員会から……

総会期を締め括り

総会へ備える会議

広報 大兼久芳規



今回の教団運営委員会は総会期を締め括るものとして、神学院に集まって行われました。内山代表より、マタイ6章から「みこころが天でも行われるように地でも行われますように」と語られました。

【国内教会局】

この秋も多くの教区で、対面での教区会が持てずZoomなどを用いての教区会となりました。新型コロナウイルスの各教会での対応状況がアンケートでまとめられました。近々ご報告できればと願っています。

各教会にインターネット環境が必要になっています。ホームページやリモート会議ができる環境のサポートを国内局でも考慮中です。

【世界宣教局】

11月には宣教聖日DVDが発送されました。各教会で宣教地を目で見て、覚え、祈る聖日でした。

【教育局】

オンラインでの若手牧師研修会が祝されています。また教職試験の立場にある先生方へ受按を働き

かけることが検討されています。

【信徒局】

信徒局の動きや考えが、地方まで届いていないとの声が届いています。エリア制の委員の協力に加え、信徒間の交流を深めていきたい。また来年11月には信徒局へのアンケートで一番期待されていたテーマ「信仰者の家庭建設」を同盟教団理事長、朝岡勝師を迎えて開催したく願っています。

【総務局】

教団の法的な課題が生じたときのために、顧問弁護士をお願いし、備えを致します。

【条例審議委員会】

10月に教役者と信徒代議員に送付した条例改正素案に対して、多数のご意見をお寄せいただきました。これを受けて、教団運営委員会としては、来年の総会へのBA制度と神学院理事会制度の提案は見送り、さらに検討・修正を重ねていくとの方針を定めました。

【一般会計・特別会計報告】

今年の新型コロナウイルスの影響を受けて、各教会の献金の減少もあり、また教団・各局においても年間計画が延期・中止され、集まったの会議からネット会議に変更されたこと等も考慮し、新年度の会計も各局、総じて減額された予算編成となっています。

【2021年総会・年会】

来年の総会は、感染対策の充実した会場（品川）で、また年会はZoomやYouTube配信を利用して開催する準備を進めます。

信徒局から……

協力の輪を広げて 次年度への準備を

信徒局長 斎藤純雄

▽局壮年部委員会

年会を越えてZoomによる会議の態勢がようやく整い、本年度初めての局壮年部運営委員会が、10月2日午後に行われた。本年度は牧師1名と信徒4名の体制で、沖繩や松江など遠隔地から参加のハンディなものとし、オンライン会議の威力を感じさせられた。和気あいあいの雰囲気の中で、信徒局細則の改正案などについて確認と理解を深める時となった。

▽局女性部委員会

同じく新メンバーによる初めての女性部運営委員会が、10月16日夜8時から10時までZoomにより、牧師2名、信徒3名の熱心な協議・貴重な提言の時が持たれた。今年度より、女性部会計が信徒へ移管されたのを契機に、壮年部・女性部の会計を一本化する。昨年まで継続されて来た女性部会報を、信徒局ニュースレターの中に組み込んで一本化する。例年なされてきた宣教地へのクリスマスカードと献金を、信徒局の取組として継続することなどの方向性が決められた。

2020年10月20日(火)に開催

JHA 関東聖化大会

初めてのオンライン聖会開催 恵みに溢れた聖会に

中目黒教会 梅田 昇

の実行委員の先生方や有志により配信がなされ、12のサテライト会場や地域教会、神学校が参加してくださいました。神学校合同賛美もみごとに編集されてオンラインで配信されました。新型コロナウイルスの感染拡大の中で関東聖化大会では、オンラインを通して、変わりなく聖化大会を開催することが許されて感謝しています。

新型コロナウイルスが増加した春頃から秋の聖化大会について検討し、今回はオンラインによる聖化大会を開催することを決定しました。その結果、第35回関東聖化大会は期間を短縮し、YouTubeでの配信という方法で開催しました。

講師は、日本イエス・キリスト教団香登教会工藤弘雄先生でした。聖化に関する聖書的な説教を語ってくださいました。今回の聖会のテーマは「こんなにすばらしい救い」でした。女性大会とセミナーに関しては前もって映像をお送りくださり、ホームページに掲載しました。女性大会説教は、「主の足もとでの三六五日」、セミナーの主題は「ウエズレーとフレッチャー」聖霊のバプテスマ論を巡ってでした。

10月20日に2回の聖会を中目黒教会で行いました。聖会Iの説教は「栄えに満ちた輝き」、聖会IIの説教は「御霊の生き物」でした。オンラインで配信するために若手

の

当日、YouTubeへのアクセス数は330程でした。サテライト会場に参加された方々を加えると500名程が参加してくださったようです。聖会が終わってからYouTubeを通して、聖会、女性大会、セミナーを視聴できますので、当日のみならず継続的に聖化の説教が発信されていることは大変感謝です。YouTubeで「関東聖化大会2020」と検索しますと視聴できます。

会計の面でも参加人数が例年より少なく心配していましたが、多くの教会や個人の方々が聖化大会を覚えて祈り、献金をささげてくださいました。必要が豊かに満たされたことを感謝しています。

聖化大会の歴史で初めてオンラインで配信するということが、実行委員会も慣れない点が多く、反省点や改善点もありました。オンラインゆえに今年参加できた方々や遠隔地の方もおられ感謝でした。来年はアズベリー大学の学長ケビン・ブラウン博士をお迎えして開催する予定です。コロナ感染拡大の一日も早い収束が待たれます。

国内教会局から

恵み豊かな教会に
コロナ禍で迎えるクリスマス

いつもと違うクリスマス
今年は、コロナウイルス
感染の影響で教会の働きは
何もかもが変わってしま
いました。地域差があるとい
え、日曜日の礼拝に教会
に集まることができなくな
ると誰が予想したこと



しょうか。
このような影響が大きく
残ったままクリスマスを迎
えようとしています。いつ
もと形は違うクリスマスで
あっても、主の恵みが豊か
であるように祈ります。
変わらないクリスマス
こうした中で、私たちは
クリスマスの事実、恵みは
変わらないことに目を向け
たいものです。

「ひとりのみどりごが生
まれることにより、暗闇に
希望をもたらす光が輝き、
救いの恵みが開かれまし
た。」(イザヤ9章)。
この事実はコロナ禍でも
変わるものではありません。
降誕の主を心静かに仰ぎ見
ましょう。主が与える希望
の光はこの世界に恵みをも
たらし、未来を切り開いて
いくのですから。(阪下謙)

■仏サンモリス大聖堂の中世彫
刻保護計画に隈研吾氏の案
フランス文化省は10月23日、同
国西部アンジェの中世建築サン
モリス大聖堂の貴重とされる多
色彫刻を保護する計画に、建築家
隈研吾氏の案が選ばれたと発表し
た。かつて正面入り口の外側に
あった「ギャラリー」と呼ばれる
部分を現代建築で再建する。文化
省によると、フランスで中世の大
聖堂に現代のギャラリーを組み合
わせる試みは初めて。隈氏は「教
会の建築様式とその時代の技術を
研究してデザインした。中世と現
代の職人が共同して新たにつくり
上げる気持ちでプロジェクトに臨
みたい」とコメント。同大聖堂の
入り口を飾るキリストや天使の彫
刻は、中世大聖堂の多色彫刻の貴
重な一例。アーケードのように柱
や屋根で構成されるギャラリーが
十三世紀に建設されたが、十九世
紀初めに取り壊された。研究の結
果、資料が不十分で完全な復元は

できないとして、現代建築での再
建が決まった。

■世界福音同盟次期総主事にト
マス・シルマツハー氏
世界福音同盟(WEA)の国際



海外トピックス

理事会は10月29日、次期総主事兼
最高責任者(CEO)に、ドイツ
人神学者のトーマス・シルマツ
ハー神学問題担当副総主事(60)
を選出したと発表。2015年か
ら務めているエフライム・テンデ

世界福音同盟は1846年に設
立されたプロテスタント福音派の
世界組織。134か国の各国福音
同盟、9地域の地域福音同盟の他
150余りの諸団体が加盟。世界
で6億人を超える福音派キリスト
者が属している。(平瀬聡樹)

ロ氏(フィリップ)の後任として
来年3月1日就任する。シルマツ
ハー氏は「学術的、社会政治的な
働きをしているが、それらすべて
において、私の信念の中心は、一
人ひとりの個人と全世界を変える
イエス・キリストの福音の力にあ
る」とコメントした。

世界教会協議会(WCC)イオ
アン・サウカ暫定総幹事は、シ
ルマツハー氏に祝辞を送り、「こ
れまで、社会と教会の発展に直
面して共に働く可能性を探りなが
ら共に働く喜びを味わってきた」と
して「神は、すべての人間に対す
る愛を示し、癒しと一致と和解を
もたらすために、私たちを召され
ている」と述べた。

クリスマスの
思い巡らし
私は主のはしためです



WGM宣教師
ホリー・ミュールハイゼン

私にとって一番大きな違いはザ
カリヤとマリアの答でした。ザカ
リヤにとって子どもの誕生は祈り
の応えでした。でも彼は御使いの
メッセージが信じられませんでした。
マリアの答を読むと、似てい
るような表現ですが、ガブリエル
の言葉からこの二人の心の内側が
見えてきます。マリアは信じられ
るかどうかではなく、分らない
でも従うことを取ったのです。
イスラエルの人々が待ちわびた
救い主の誕生は誰にとっても喜び
であつたはずですが。救い主の母に
神さまが選んでくださったことも
うれしかったでしょう。でもマリ
アには辛い知らせだつたと思いま
す。彼女はまだ結婚していません
たからです。噂はどんどん広がっ
て、婚約者のヨセフが断る理由に
もなり得たのです。でもマリアは
これからの毎日が大変になると分
かっていたので神さまのしもべ、
主のはしための道を選びました。

「マリアは言った。『ご覧くださ
い。私は主のはしためです。どう
ぞ、あなたのおことばどおり、こ
の身になりますように。』すると、
御使いは彼女から去つて行つた。」
(ルカの福音書一章38節)
ルカの福音書一章には二つの誕
生の出来事が書いてあります。両
方を比べると似ている表現が多い
ですが、違っているところもあり
ます。共通点を挙げるなら、両方
とも奇蹟による誕生でしたし、同
じ御使いガブリエルが現れ、神様
からの告知を伝えていきます。
違いは、まず場所が違います(エ
ルサレムとナザレ)。ガブリエル
が伝えた相手も違います。最初に
結婚していた年配の男性に。次は
まだ結婚していない若い女性に。
ザカリヤとマリアに伝えられた
良い知らせとは、子どもが生まれ
ることでした。ザカリヤの奇蹟は
旧約聖書に通じる奇蹟でした。で
もマリアの場合は誰も思いつきも
しなかった、新しい奇蹟でした。

今年は大変な一年間でした。予
定していたこと、願っていたこと
ができなくなりました。新型コロナ
ウイルスに世界全体が振り回さ
れています。でも神様はいまもこ
こで働いておられます。私たちの
お祈りを聞いておられます。たと
えガブリエルが現れなくても、今
年のクリスマスも私たちは神さま
にお答えしたいと思えます。私の
願いはマリアのように「私は主の
はしためです。どうぞ、あなたの
おことばどおり、この身になりま
すように」と祈ることです!

新型コロナウイルスの中で 2 クリスマスを迎え 恵みを大胆に語ろう



神学委員会 国重潔志

ですが、地中海世界を旅して回っていた彼は不自由さを味わっていました。そうした中で彼は「鎖につながれながらも使節の務めを果たしています」（エペソ六・20）と述べ、「語るべきことを大胆に語れるように祈ってください」と願っていました。

パウロは、伝道で大きな実績をあげたから福音の使節となったのではなく、恵みによって福音の素晴らしさを知り福音の使節となりました。そして行く先々のさまざまな状況で福音の使節として生き、そこから結果が起きていきました。鎖につながれるという不自由な状況であっても、福音を伝える使節なのだという自分を曲げず、そこから起きる何かを期待していました。

このコロナ禍における教会について神学的見地から考えるというテーマの連載です。前回は、困難の中にあっても、あるいは困難の中だからこそ成長する面がある点に心をとめました。今回は、困難な中でも成長が起きるための鍵となることに心をとめてみます。

12月は忙しい月であり、教会もいつもならクリスマスの準備で大わらわ、のはずです。けれどもコロナ禍のため、いつもなら行われる楽しく幸いな行事が中止に追い込まれています。これをしよう、あれをやってみようとか去年の今頃話し合っていました。今年は、あれはやりません、これもやりませんと話し合っています。つらいところですよ。

聖書を開いてみますと、このよくな不自由さを味わった人物の一人にパウロがいます。キリスト教信仰は悪いものではないと上訴したパウロはローマの監獄にいました。過酷な環境ではなかったよう

このコロナ禍という鎖にしほられつつ私たちはクリスマスを迎えます。いつもなら出来ること出来ないクリスマスです。けれども、何が出来るようが出来まいが関係なく、救い主が来てくださったことの素晴らしさを知らされた私たちです。この不自由な中でも自分は福音をあかしする使節なのだという意識を大切にするとき、不自由な中でも起きてくる何かがあります。

華やかで楽しい行事がなくても、これがあるからクリスマスって素晴らしいと救い主到来の意味を見つめ、これを大胆に語れるように互いに祈りつつ、コロナ禍のクリスマスを迎えていきましょう。

新型コロナウイルス感染拡大の中で

SNSを活用し 礼拝を共に コロナ禍での教会



呉教会 内山忠信

2020年は、コロナ禍で終始し、来年もコロナ禍が続くような状況の中にあります。

今回のように、教会に集まれない事象が起こることは聞いていました。それが現実となるとは考えもしませんでした。

未だに終息の兆しは見られない中で、一日も早い終息を祈りながら対応を継続しております。

これまで心掛けて来たことは、情報収集を行いながら、祈りつつ、神の知恵を頂きながら、即時に対応することでした。週の半ばでも市内に感染者が出た場合、「それぞれの場所」での礼拝に切替えました。CDを利用される方は、木曜に礼拝を収録し、土曜までに届け、フェイスブック（FB）、LINEの方には、礼拝の中継しました。

祈り会は、それぞれの場所で、プリントによって行って頂き、状況が許せば、月一回の祈り会を行っています。

コロナ禍での対応ということで、

まず礼拝のプログラムを短縮したものに変更（コロナ禍終息まで）しました。そして2回に分けての礼拝を行なっています。

3月1日からはFBの中継を開始しました。この時は必要があったから行ったのではなく、iPadがあったので、試しにやっただけです。iPadですとカメラは不要で簡単にできました。今では、立场上礼拝に集えない方、その日集えない方、遠方の方々がFB中継を通して、礼拝に参加され、毎回 応答が寄せられています。

これまでの生活パターンは変わり、礼拝メッセージの準備は水曜までに行います。Zoomでの会議も多くなり、多忙になりました。毎週2回の礼拝で、体力を鍛える必要を覚えさせられています。

今回のコロナ禍についての評価は時期尚早であると考えます。今すべきことは、お互いのつながりを大切にして行くことです。みことばを通して信仰を励まし、祈り支え合って行くことが、今一番必要なことではないでしょうか。

今、私たちはいつまで続くのか先行きのわからない状況にあります。こうした状況だからこそ、信仰によって希望をもって忍耐して進みましょう。

元気を失わず、互いに声をかけ合い、どんな時にも神に信頼し、祈り進むなら、新たな展開が始まり、神の恵みを見ることでしょうか。主のみ守りと祝福をお祈りします。（ピリピ4・11～13）

厚生委員会から

課題を学び合う 牧師を支える働き

厚生部長 北田直人

謝恩日にはお祈りと共に特別献金を献げていただき感謝いたします。

●各教会で認知症の学びを

年會が中止となりましたので、研修なしでも各教会で学びの時を持つていただけるよう、DVDを作成中です。DVDと資料等は年内に各教会に送付の予定です。ぜひ教会で認知症について理解する時をお持ちください。

●同世代の牧師で学びを

今年には研修ステップⅠ（70歳）、ステップⅡ（75歳）が中止となりました。来年はクラスターにならない程度の人數で実施いたします。日程や場所は参加者と相談して決定いたします。今年参加する予定だった方々にも参加していただけるように考えております。

●退職金の公平化

いろいろな意見が出されたと共に、過去の経緯の説明もなされ、この件に関しては特に制度で定められないことになりました。初代教会のように、限られた財を有効に融通し合うことによって、良い証しを立てる群れでありたいと願います。（使徒の働き四・34～35）

巻頭言

嵐の中のクリスマス



世界宣教局長
梅田 登志枝

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(ヨハネの手



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

世界宣教局

紙第一 四章10節)
宣教地フィリピンでの忘れられないクリスマス思い出があります。その年は異常気象で乾季になって雨が多く、クリスマスイブには台風がフィリピン北部を直撃し暴風雨となっていました。その日、体調を崩していた幼い娘は、夜には体温がさらに急上昇し意識が低下するほどになっていました。村にある診療所に連れていくにも風雨は激しくすでに夜。電気のないこの地域の夜はまさに闇そのもので、街灯がない泥道、しかも片方が深い谷底になっている道を車で走るとは危険でした。ただひたすら娘に手を置いて祈るしかできませんでした。
すると、突然、校内で寮生活をする男子神学生二人が娘を心配し

て我が家を訪ね「ドクターのところに連れて行く」と言うのです。戸惑う私たちをよそに、一人が雨合羽で覆った娘を背負い、一人が大きなランプを手に嵐の闇夜に消えていきました。その後、診療所が閉まってしまったため、ドクターの自宅を探し訪ねたと聞いた時は、ただただ彼らの大きな犠牲に感謝しかありませんでした。
コロナ禍で多くの人々がなお不安と恐れを抱く中でクリスマスを迎えました。けれども私たちに「ここに愛がある」と人々を希望の主イエス様のもとにお連れすることができません。あのイブの夜、ドクターのもとに娘を連れて行くことが出来たのは彼らしかいませんでした。貧しさゆえに授業料も払えない彼らですが目の前の必要に何とか力になろうとする純粋な愛に教えられました。自分に与えられている若さや体力のすべてを持って、精いっぱい愛を示してくれたのです。その大きな犠牲のゆえに幼い命が助けられました。
史上最大の犠牲を払われた方は神様です。私たちの罪のためにひとり子を十字架につけてまで私たちに赦しの道を開いてくださった神様の犠牲を超える犠牲はほかにありません。ですから私たちがベストを尽くし、神様の愛に応えたいのです。このクリスマス、私たちがあなたを希望の主イエス様のもとにお連れすることが出来たら、何と幸いでしょうか。「ここに愛があるのです」と。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2020年11月12日

「私は福音のためにあらゆることをしています。私も福音の恵みをもとに受ける者となるためです。」(1コリント九章23節)
台湾では、すでに低リスクと中低リスクの地域からのビジネス目的の短期滞在者に対し、入境14日前に渡航歴のないこと、陰性証明の取得などの条件を満たせば14日間の在宅検疫(外出禁止)の短縮を申請することが可能となっていますが、11月に入り、世界のコロナ情勢を慎重に分析・判断しながら、訪台ビジネス関係者に対し、入境後の外出制限を条件付きで緩和する「ビジネスパス」の第一弾が始まりました。これで到着後の隔離は不要となります。今後、訪台の必要性や切迫性、代替不可可能性など、幾つかの定められた指標に基づいて申請を許可するといふ手順が進められていきます。この新しい施策がどのようになるか各界が注視しています。
◇台中牧師会の学び 講演「コロ

ナ禍の教会」
先月は、台中の牧師愛餐会に出席する機会が与えられました。その会合の中心は、「コロナ禍の教会」オンラインと実在の統合」というセミナーで、台湾で長らく教会形成を現職でありつつ、指導、研究しておられる夏忠堅牧師を講師に、有意義な学びと研鑽の時でした。
最初に、科学的・医学的・最新資料に基づくコロナの実情と今後の推移、次に、コロナ禍で、教会が実際に取り組んでいることの整理と分析、最後に、向こう3年このような状況が続くと仮定しての、今後、どのように教会形成を進めていくか、その具体的な取り組みと提言というものでした。
現状をしっかりと踏まえつつ、既存の教会の働きの再評価とコロナ禍にあつて生まれた新たな教会の働き・思索を並行して推し進めていくという積極的、かつ柔軟な提言、具体的な取り組みの事例を拝聴しつつ、多くの示唆と大きなチャレンジをいただきました。過日、日本でも宣教フォーラムが開催され、アジア各地の教会でも、同じような会合がもたれています。個々の教会の積極、果敢な働き、報告と提言、活発な意見交換がなされました。世界各地で、教会がこのようなコロナ禍のまさに想定外の事態の中で、神さまからの光をいただき、福音宣証の新たな展開の中で、宣教の働きに邁進している姿を確認し、改めて胸躍る

思がしました。◇「すべての人に福音を、すべてのことを福音のために」

そのような中、「すべての人に福音を、すべての事を福音のために」をモットーに、台中市内のある聖書学校が数年来取り組んでおられる「練り香水伝道講習会」にも出席する機会を得ました。

このプログラムは、それぞれの教会にそれぞれの必要に応じて教える専門の講師、助手、奉仕者が派遣され、その会場に出席した人々とホストとなる教会のメンバーと共に、香油を作りながら、福音を証しする集会です。準備されたレジメを見ると、事前に固かな用意がされており、開会の言葉から合間の会話例、的確な聖句一覧、時間配分なども明示されていました。この伝道講習を教会で受けた後、それぞれの教会がそれを用いて働きが進められるように工夫がなされています。ほかに、バルーンアート、油絵、ギター、クッキング、粘土3Dなどなど、教会の愛姉姉の賜物を持ち寄ったオリジナルの企画、伝道プログラムが続々と生まれています。それらの集会の根底にあるのは、「すべての人に福音を、すべてのことを福音のために」で、私たちにも主のために何かできることがあるという素朴な祈りから生まれたものなのだという証しを聞き、主の御名があがりました。■ (写真は台南日本語教会・聖餐の恵み)



根廻恵子*2020年10月27日

主の御名を賛美します。10月に入り、秋の深まりを感じる季節となりました。今月から、以前働いていた病院での働きを再開しました。知っている職場で働けることは本当に感謝です。今年5月に一

度退職した時からやや変わっている内容もありましたが、教えていただきながら仕事を再開することが許され感謝です。10月6日に世界宣教局の局員会がZoomでもたれ、国内の局員の皆様方、また国外におられる宣教師方と画面越しにお会いでき、励ましと恵みに満ちた楽しい時となりました。

ザンビアでは、日々感染者が出ているようで、コロナ感染者の総数は1万6千人を超えました。しかしパンデミックからは守られているようです。ジェンボはいまのところ感染者が出ていないようで感謝です。ただ世界的な経済危機をザンビアも受けているようで、経済状態は相当悪化しているとのこと。特に通貨クワチャはかなり打撃を受けています。ザンビアの経済のためにもお祈りに覚えていただければ感謝です。

ザンビアで使用していた宣教師の自賠責保険が更新時期に差し掛かりました。世界宣教局の指導のもとで、現地に宣教師は不在ですが、更新して良いという許可を得て、手続きをしました。私自身がザンビアにいないために保険会社とメールでのやりとりでしたが、丁寧に対応してくださいました。手続きでやや滞ることもありましたが、必要な時に絶妙なタイミングで知恵と助け手が与えられ、無事に手続きを進めることができました。日々主の恵みの中で歩ませていただき、支えられていることに感謝します。■



蔦田緑乃*2020年11月5日

「地が芽を出し、園が蒔かれた種を芽生えさせるように、神である主が義と讚美とを全ての国の前に芽生えさせるからだ」 (イザヤ六一章11節)

御降誕くださいました御子なる主にご心から礼拝を御捧げします。カンボジアの宣教活動も10月末には徐々に政府の教会への不穏な姿勢にも恐れず前進を開始。特筆するイベントは、数年もの間途絶えていた伝道者と家族のリトリート。特に毎回コイン献金からの支援に頼っていた伝道者たちの霊的一致が成長を見せて、夫々のできる範囲に応じた費用の負担を出しあうことができたとの報告に、自立を幻として立ち上がったKCCCだけに、一歩前進！の証しと心から感謝しました。然も講師はヴァンディ先生と御夫人のテス先生の御二人！特にテーマの伝道者としての夫婦関係、家庭形成、子育てを自分の証しとして語り、群の伝道者の育成を真面目から真剣に

取り組んで戦っている姿に彼を主が選びの器として与えられたKCCへの期待と主への感謝。そしてこれからも背後で祈るIGMの諸教会への期待をお伝えしたいと思います。そのリトリートの様子はフェイスブックに報告されていますので開いてみてくださいと感謝です。そしてもう一つのご報告はお祈り頂いていますヴァンディ先生のお父様の救いへの道が一歩前進したことです。このリトリートの前の週、ヴァンディ師は故郷のお父様の白内障手術をブノンペンの病院でと手術前後の二日間自宅に迎え、あらゆる介抱とお世話をしながら神様が如何に自分を造り変えて下さったかを証ししつつ、嘗て自分への怒りからナイフを振りかざして命をとるべく追いかけてきた御父さんに神様の愛を伝え、心から親子としての語り合いができるまで和解ができたこと、故郷へ送る車中の会話も心開かれる時とされたとのことでした。後もう一歩という所まで心が開かれましたが、まだ神様についての疑問が残されたまま、次回の訪問に委ねて、聖霊の追い打ちをお祈りしておられるとの報告に日本のクリスチャンたちが一緒に祈っておりますよ、とエールを送ったことです。またこうした一連の出来事を身近に見聞きしておられる妹さんのコンチーが「私は70%はクリスチャンよ」と言っています救いに到達するまで、またご一家とご親族の救いの成就のためお祈りくださ



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2020年11月11日

一時は4%近くまで減少した感染率を受け、麻酔科看護師コースの実習生が帰ってきました。もともと臨床経験を数年経てから受講できるコースなので、普通の学生に先駆けての再開となります。最初のグループは、新型ウィルスによる規制で中断された残りの1週間のみ、次のグループから4週間となりました。普通の学生も、オ

い。この報告を御読みになられた後、「執成し手宣教師」の一人となり、共に主の御前で祈りの働きにお加わり頂けたら幸いです。御降誕の夜の出来事がクメールの人々にも再現する御降誕節となりますよう祈りつつ。
*KCCの活動の様子がフェイスブックに更新されています。
https://www.facebook.com/KhmerCommunityChurch (KhmerCommunityChurchとだけ検索してください。)

オンラインから一部対面式授業の再開、日本の小中学生レベルもそろそろ授業再開と言われ、一般的にも夜間外出制限の時間数や冠婚葬祭の人数制限の緩和等もあり、少しほっとした空気が流れていました。ただ、ほっとしすぎて、マスクをしていない人や手洗いの省略等の増加があり、懸念があまりましたが、たちまち感染率が20%近くに増加していきましました。それを受けて、先ごろ規制の強化と見直しがされました。もともと公共の場でマスクをしていないと逮捕、ではあったのですが、更に罰金2万円となりました。また集会の制限の規制を守っていない場合は、今後の集会の開催を一切禁止する、飲食店で時間帯やその他の規制を守っていない場合は営業停止とする等厳しい処置になりました。小中学生レベルの授業再開も、最初に計画された来年1月に戻る事になったようです。海外からのボランティアの受け入れも一部制限付きで再開し始めていましたが、再び保留となるようです。感染率の上昇を受けて再びマスクの着用率上昇がみられるようになったのは良かったのですが、それでもしていない人はしていない、また正しく使用されていないことも多いので、互いに注意することが勧められています。

「今？このタイミングで？」と最初にストライキの事を聞いた時は声が裏返ってしまいました。が、近隣のかんりの病院が加わって

るストライキの影響は現在も継続中です。もともと10月は、毎年出産や帝王切開の多くなる月です。普段から多い患者さん数に加えてストライキ中の他の病院からの患者さんが上乗せされ、どこもかしこも過密気味、加えてお見舞いの人たちが数多く押し寄せようとする事により、通常の業務超過だけでなく、感染のリスクも上昇しています。陽性の患者さん、スタッフが増えてきています。今月は主任が1か月の年次休暇をとっていました。もう一人の副主任と主任代行業務をしました。昨年と比べ、少し前からナイロビの業者への、細々として時間と手間のかかる発注作業に、会計から助っ人が入るようになったので、状況はかなり改善しているはず。また年次休暇を取る人がいない月のスケジュール作成は人数的に楽なはず。例年より一か月近く繰り上がった日程なので、その分年末から遠くになって、年末近くの煩雑さから遠くなった分、楽なはず、だったのですが、昨年と今年にかけて進学等で退職した4人の補充がまだ等

でなかなか大変でした。
月末、大事な鍵の一つが無い、と副主任と2人で1日探し回った次の日、A先生が「一昨日、2人ともオフィスにいる時に声をかけて借りたんだけど、昨日中に返せなくてごめんね」と返却に來られました。紛失等ではなかった事に

はほっとしつつも、2人ともその記憶が一切なかった事に危機感を

覚えました。常のお祈りによってひと月支えられましたことを心から感謝申し上げます。途中で回線が途切れる等のハプニングがありつつも、Zoomなどを通して世界宣教局の局員会や、宣教ビデオのためのインタビュー収録、JEAの集会などに参加できたことは感謝でした。

◆会計報告10月分
宣教献金 三、七四六、二四三円
月平均 一、八七〇、一二五円

◆ケニア(葛田就子)
◆主任代行の月が守られた感謝
◆ウィルス関連の様々な長期ストレスの中にある患者さん、ご家族スタッフのため
◆麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカ一〇章二節)が起されるように
◆フリーピン(豊田)
◆これからクリスマス休暇に入る学生たちの健康と霊性のために
◆職員たちの次学期の準備が十分にできるよ

◆お祈りの課題
◆台湾(平瀬)
◆台湾も、朝夕は涼しくなりまし

◆健康が守られますよ
◆クリスマスに向かう台中教会
◆台南日本語礼拝の働きのため。諸準備を主が助けてくださるよ

◆今年度の締め括りに入ったKCCの諸教会に聖霊の御働きと結実のため
◆伝道者の奉仕と生活の必要が満たされる信仰の成長のため
◆葛田の来年度の宣教活動の門が御心の裡に開かれ、健康と信仰両面が強められるよ

◆確な救いへと導かれますよ
◆台湾の政治と経済、教育、治安が安定し続けるよ
◆日本にいる子供たちの心とからだ、生活が守られますよ
◆ザンビア(根廻)
◆病院での働きが守られるよ
◆ザンビア・ジエンボに主の導きが豊かにあるよ
◆1月赴任予定の準備のために
◆ザンビア(富澤)
◆コロナの状況が終息に向かい、ジエンボのスタッフと家が守られますよ
◆ザンビア帰国への道が開かれますよ
◆香港(鹿島)
◆コロナ禍の中、規制と試練は続いていますが、ここまで守られたことへの感謝。コロナの終息と香港の社会秩序安定のため
◆約1年間にわたって大陸への出入りが出来ていません。次の新しい道が主の御心の中、開かれますよ

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

従うことを学ぶ

院長 ● 林 正弘

「キリストは……神のあり方を捨てられないとは考えず、……人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」(ピリピ二・6-8)

先日、かかりつけの医師から、「これから忙しいでしょうから気をつけてお過ごしください」と声をかけられました。教会はクリスマスには忙しくなるから、という意味だと思いましたが、言われてみて、改めて今年のクリスマスはどうなるのだろうかと考えました。行事としては激減するでしょう

が、それで楽になるとは限りません。新しい状況や場面に直面してこれまでの当然が当然ではなくなる時、そこには新たな課題があり、闘いも大きなものがあります。今年の神学院の歩みも新しい経験の連続でした。なかなか対面の営みができないなかでもオンラインの授業などによって学びが進められたことは感謝でした。今後ともさまざまな面で新たな対応が必要となってくるものと思われま



神学院キャンパスのみかんは大豊作でした

到底表せないものですが、主はそこに身を当てはめ、完全な人としてのあり方を示されました。目の前の現実や置かれる状況は、受け容れがたいものであったはずですが、御父のみこころとして徹底的に従われました。ヘブル人への手紙には、キリストは御子であられるのに、従順を学ばれたと記されています。

私たちは今年、何を学んできたでしょうか。今までしてきたことができなくなつて嘆いたり、新しい状況への対応に四苦八苦して文句を言ったりしたかもしれません。あるいは新しい可能性を見いだして喜んだかもしれません。しかし、すべてにまさつて主の心を学び、どこまでもみこころに従うことの幸いを味わうことができたなら、と願うものです。

定年退職直後、神学院での学びが始まった。その環境の激変により抑うつ的な不安が襲ってきた。たまりかねて心療内科へ。適応障害との診断が。医師曰く、「治る方法は簡単です。神学院をやめることです。心身は正直に悲鳴を上げています。」召命感があったが挫折感で苦しかった。数週間後、

握り、寄り添い、共におられた。自らの弱さを見据えること。それは恵みである。弱さこそが今まで味わえなかった信仰の深みへと導き、同じく弱さを抱える方々と心を通わせるきっかけとなる。様々な試練との出会いは、弱さのもつ価値を見出す機会でもある。「弱さを誇る」とパウロは言う。自らの弱さに愛おしさを覚える。

神学エッセー 福音理解の諸相 2 弱さを見据える体験



戸塚雅昭

パウロは強い。靈的にも精神的にも肉体的にも。聖書を読む限りそんな印象を受ける。初代教会も半端ではない。聖霊による沸き立つような熱い雰囲気、信じた者の人格と生活の一変、迫害の中でも殉教を辞さないほどの堅い信仰。その根底には、救われた喜びと死を超える希望と主の復活の証人としての使命があった。私も筋金入りのキリスト者になりたかった。信仰さえあればどんな苦痛も克服できる。本気でそう信じていた。強さ、聖さ、明るさ、数の多さ、成功体験などは祝福の証し。悩める人に多くの子どもたちに、この道を伝えたい。心は燃えていた。

回復へと向かうが、この辛い経験により、自らの信仰も福音理解も大きく問い直されることになる。勝ち組の信仰ではどうにもならない現実にも真正面から向き合うことを、避けてきた傾向はないのか。思えば人となられたイエスさまはご自分の弱さを、見据えつつも決して隠そうとはされなかった。ゲツセマネで祈る時に、ペテロ、ヤコブ、ヨハネに対し驚くべことを言われる。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです」と。主はこの3人にそばにいてほしかった。極めつけは、十字架上の悶絶の叫びである。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになつたのですか」天の父からも見捨てられたと感じるほどのどん底からの呻きがある。嵐をも静めた權威はどこへ。無力さと恥と絶望感を群衆にさらけ出されたお姿はわが罪ゆえに。想像を絶するリアルな情景は、恐らく直視できないだろう。でも、私が辛い時に慰められたのは勝利者キリストではなく、苦しまれる無力なイエスさまだった。この方が弱り果てた私の手を握り、寄り添い、共におられた。

◆神学院で味わう恵み

蜜柑と薩摩芋

聴講生 金森柱きんむすじ

「シオンの子らよ。あなたがたの神主にあつて、楽しみ喜べ。主は、義のわざとして、初めの雨を与え、かつてのように、あなたがたに大雨を降らせ、初めの雨と後の雨を降らせてくださる。」

(ヨエル書一・23)

秋が深まり、神学院では季節の味覚を楽しんでおります。今日は、美味しい糧の話をしようと思ひます。先日、神学院の畑で育つた薩摩芋を収穫しました。子どもある大きなもので、傷をつけないように大事に掘り当てました。そうかと思えば、神学院教会の横では枝いっばいに蜜柑が実っています。入学した時は、何の木かさえも気に留めていなかった木にたわわに実がなつて、ようやく気がついたのです。韓国では、蜜柑といえば温暖な気候の済州島です。ソウルで暮らしているのに蜜柑の木が植えられているのを見たことがないので、不思議な気分です。黄色く色づいた蜜柑を部屋に持ち帰り、食後に食べる楽しみを暫く味わうことができまし

た。

この蜜柑と薩摩芋を通して、私は幾つか教えられました。まず、生命は成長し実をつけるという単純な理致です。雨に打たれ風に吹かれて、いつの間にか実を結び、人々に喜びをもたらします。

次に、薩摩芋を育てた人、蜜柑の木を植えた人がいるということですから。そのご労があつてこそ、今日こうして私たちが自然の恵みにあずかることができるのです。

最後になりましたが、神学生に様々な糧をお分けくださる信徒の方々にも感謝申し上げます。この文章を書きながら、お一人おひとりを覚え、お祈りいたしました。日々、誠実に学び、良い実を結ぶキリストの弟子になれるよう励みたいと存じます。

◆神学院で味わう恵み

ともに食事を

聴講生 矢代ゆう

「ああ、朝の食事をしなさい。」
(ヨハネ二一・12)
皆様のお祈りに支えられ、本年を終えようとしていることに感謝申し上げます。

私は昨年からアイマスクになり、絶望的な中、主の導きにより日本

視力障害者福音伝道協力会に入会させていただきました。

そこで、共に食事をするためのセミナーが開催されました。盲人牧師、影山範文先生のユーモアたっぷりの司会。そこで「盲人って、ミステリアスで怖いわ」と点訳奉仕者の方が遠慮なくおっしゃるので、会場は爆笑の渦。晴眼者が黙ってお茶を注いでしまったので、3人の盲人が次々とお茶をひっくり返したというエピソード。とにかく笑いに溢れて、私はとても慰められました。

「あなたは不自由になったばかりだから、人前で食事をしないと決めて、周りの人に理解してもらうことも大事ですよ」とアドバイザーをいただきました。

障害によって、共に礼拝することの意味は大きく変わります。神学院では光による強い痛みのある



ホテルハウスに集まって行われた秋の教師会です

私のために、教室に遮光カーテンをつけてくださいました。そうすると溶接用のゴーグルを掛ければ少し目を開けることができます。当時、食堂の厨房は工事中。そこでカーテンをぴたり閉めて薄暗くした教室で、普段は別々の席の男子神学生と4人でお弁当を囲むことができました。

脳に関する病気で足も不自由になり、いつまで神学院に体を運ぶことができるのかわかりません。そんな不安を誰にも言えない日々。これが最後かもしれない食事を、目を開いて共にすることができたこと。

「神のあり方を捨てられないとは考えず、仕える者になり、ご自分を空しくし」(ピリピ二・6、7) 共に食事をしてくださった主を待ち望み、皆様とまたお会いできる日を心から待ち望んでいます。

後援会コーナー

コロナウイルス感染拡大の中で
卒業生・在校生のために
お祈りの手を挙げよう

聖宣神学院後援会

新型コロナウイルスの影響から、これまで毎月開催されておりました「神

学院祈り会」が3月以降ここまで中断されております。これまで毎月の神学院の「祈りの課題」を各教会宛、送付させて頂いておりますが、今回「教報」誌上にBTC後援会コーナーを開設していただきましたので、当コーナーを通してBTC後援会から祈りの課題を上げさせて頂きます。

1 今年3月に卒業され、現在牧師として教会に遣わされ、ご奉仕に励んでいる先生方のために。

● 竹内俊之師(姫路教会)
● 峯尾仰生師(北九州教会)
● 中尾敬一師(武蔵村山教会)

● 秋田郁美師(町田福音教会)
2 今年度入学された2名の学生と7名の在校生のために

● 林真光兄(蒲田シオン・正規)
● 金森柱兄(東京フリーメソジスト・聴講)

● 石川順兄(正規)・由中利道兄(短期) ● 藤井佳代子姉(短期) ● 矢代ゆう姉(聴講) ● 石川牧子姉(聴講) ● 山田由紀子姉(通信) ● 福田秀子先生(休学)

3 今年オープンキャンパス、年末リトリートが中止になりましたが、献身に導かれる方が備えられますように。

4 神学院の経済的な必要が満たされるように

5 教師、職員、信徒でご奉仕してください方々(食堂、図書館、営繕、ホテルハウス)のために

6 後援会の世話人になってくださる方が更に与えられるように

(BTC後援会・池田光重)

いま神学院では……
『教会史』の授業紹介
教師 ● 宮崎聖輝



教会には「教会史」という膨大な経験値が積み上げられていますので、これを用いないわけにはいきません。

授業は、「教会史Ⅰ」と「教会史Ⅱ」に分かれています。1年目に「教会史Ⅰ」（全14回）、2年目に「教会史Ⅱ」（全14回）を受講します（今年はコロナ禍で、「教会史Ⅰ」はZoomを使つてのリモート授業になりました）。

教師として神学院に通い始めてから10年が経ちました。現在は「教会史」を受け持っています。ここまで回を重ねながら試行錯誤を繰り返してきました。ときには神学生からの鋭い質問を、教師が宿題として持ち帰ることもありました。神学生とともに学ぶ姿勢を忘れないで奉仕にあたっています。

「教会史」といってもその範囲は膨大です。ですからどうしてもハイライトの授業となります。そのことを踏まえながら授業で心がけていることの一つ目は、教会史全体を俯瞰的な視野で見渡せるようになること、全体像を掴むことです。私たちはそれぞれの教派や教団に分かれています。俯瞰的視野に立つ時、キリストを源流とした一つの大きな川の流れであることがわかります。二つ目は、教団人として自分の立ち位置を知ることです。出身教会の歴史的な背景を学び、自らのアイデンティティを確認します。三つ目は、実際の牧会に遣わされたとき、教会史で学んだことを活かして方向性を導き出せるようになることです。

同窓生の近況

57期生

東京 FM 八王子中野教会 ● 須郷裕介



BTCを卒業してからもう12年目かあ……と、主の恵みと守りに唯々感謝しています。幼少の頃から母教会に任命を受け、最初の独身の2年半は、教会の主幹の働きと、教会や教団の青年層の建て上げのための働きに追われました。

牧師である妻との結婚に導かれ、教職者ペアの働きとなって、改めてこの教会への牧会の方向性と展開の形とが多くの面で次々と明確になったことは大きな感謝でした。現在の教会の構成は、壮年、婦人、青年、児童が同じ割合で、ここ数年拡大の方向が与えられ、主に感謝しています。また、卒業当初から導かれたJHAと日本ケズィックでの奉仕や、折々の個人の人音楽伝道奉仕にも継続が与えられ、多くの事を学びながら奉仕しています。娘の愛花里は今年小学生になり、コロナ禍の中も楽しく通学し、ネットで英語やダンスにも挑戦しています。ここまで大小様々な出来事がありました。いつも最善に働いて下さる主の恵みが注がれてきたことを実感しています。お祈りを感謝致します。

神学院スタッフ…恵みの想起

神さまの「一コマ」

学監 河村從彦

ご奉仕が始まった時から、次にごお委ねするかを考え始めました。今、次の「一コマ」を展望しつつあることにホッとします。

神さまは欠け多き人間に時代の「一コマ」を託されます。いろいろなことに取り組みました。神さまの最後のチャンスという切迫した思いがありました。人間は「一コマ」でなければ燃焼できません。

神さまは欠け多き人間に時代の「一コマ」を託されます。ということは、神さまの仕事には、しめくりがある、職を引き受けることは、そのことを知っていることです。そこで次の仕事が始まります。委ねた後の「一コマ」を尊ぶことです。本当の仕事はそこから始まります。恵みは回転して行きます（ヨハネ一・16）。後ろを向けば淀みます。

学苑だより



祝ご聖誕
● 授業はもうしばらくリモートで行われます。

● 教師会はオンライン併用で、ベテルハウスのホールを会場に、感染防止対策をして行いました。

● ハラスメント問題が取り上げられ、教師も現実に向き合い、神学生と健全な接点を作ることができるよう、思いを新しくして行くことが確認されました。

● ベテルハウスの宿泊利用はもう少し様子を見て判断します。お問い合わせは学務課の馬場姉まで。

● 今年のBTCリトリートは、残念ながら中止になりました。

● 同日時を活用し、29日（火）午後、BTCリトリート委員会を中心に、「献身者を祈り求めるホンネ広場・今までを振り返って、これからを展望して」が行われます。● 神学院祈り会は行いません。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。10月の会計報告をさせていただきます。

10月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥585,725
教会団体による「神学院献金」
¥437,710
合計 ¥1,023,435
その他の献金（一時・特別）
¥63,000

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

2020年 祝 降誕節

「あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つめます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

(ルカの福音書2章12節)

すでにアドベントに入りクリスマスに向かう歩みの中ですが、コロナ禍の中で、いつもとは異なる営みを余儀なくされている教会も多いことでしょう。その様な中でも、救い主キリストを待ち望み、お迎えする喜びが変わりになく私たちにあふれますよう主にお祈りいたしましょう。また、洗礼の恵みにあずかる方が興され、オンラインでも各教会に導かれる方々にも喜びを分かち合えますように。

■本部

例年この時期に全国の教会では、「クリスマス・下半期感謝献金」を実施されます。主への感謝、働き人への感謝を表すための献金にご協力をお願いいたします。

【牧師・会計担当者へのお願ひ】

教会年度の区切りを迎えますが、各教会は通常会計だけでなく、会堂会計、予備会計などの特別会計の会計処理を明確にして、1月に持たれる教会総会に備えましょう。なお、年報など新年度事務報告書類一式を、12月1日付で本部から発送いたします。提出期限は来

年1月19日(火)となっております。遅れないようにお願いします。

書類の中に、2021年度の「教団主要行事予定表(暫定版)」が含まれています。予定表に関して、修正や付加などの情報は本部総務局までお知らせください。年会時に確定版を出す予定です。

【BTC後援会費の事務処理】

来年よりBTC後援会費の受付が開始されますが、教会として参加される場合、月例教財勢報告書の支出科目の「諸会費」で支出してください。教会を通して個人で加わることを希望される方がおられる場合は、収入科目は「その他の献金」、支出科目は「諸会費」でお願いいたします。

〔年末・年始の業務〕

本部 12月22日(火)まで
出版 12月24日(木)まで
1月7日(木)から

本部業務につきましては、引き続き火曜日のみ午後1時～4時まで常駐者1名を置いての対応となり、その他必要に応じて出局する場合もあります。出版事業部も木曜日の同時時間帯で業務いたします。

〈新年聖会〉

2021年の関東4教区新年聖会は新型コロナウイルスの影響を考慮し、開催を取り止めます。なお、2022年に講師は今回予定しておりました岩井基雄師をお招きします。各地域で新年聖会開催の対応は異なると思いますが、祈りのうちに、新年の良きスタート

を切らせていただきます。

〔第22次総会〕
日程 来年2月11日(木)
午後1時～8時
会場 フクラシア品川クリスタル(港南)

〔第76次年会〕

来年の年会は2021年3月25日(木)、オンラインで行う事務年会となります。プログラムの詳細は後日お伝えいたします。

■国内教会局

一年の締めくくりの月、各教会ではクリスマススの洗礼式を目指して備えがなされています。求道者方々が明確な救いに与られ、受洗へと導かれるように祈りましょう。

〔伝道サポートシステム〕
▽今年には伝道サポートシステムの実施が困難な状況にありました。来年も同じ状況が予想される中、局としてはインターネット環境が未整備の教会のサポートに協力させていただきます。これからの伝道の働きの一助となるように願っております。

■世界宣教局

▽今年も宣教コイン献金にご協力いただき感謝いたします。来たる1年もご協力をお願いいたします。なお本部送金の際には通常の送金ものと区別して「宣教コイン献金」と明記してご送金ください。

▽富澤香宣教師、根廻恵子宣教師(ザンビア)は渡航中止勧告のためザンビア赴任が延期されています。1月出発の準備を進めています。ザンビアへの郵便物、物資

の送付については安全のため、しばらく中止してください。

▽根廻恵子宣教師は11月23日(火)船橋教会で、林正弘牧師の司式によりボブ・コンベ兄(日本在住)と挙式されました。おめでとうございませす。しばらく単身での赴任となります。お祈りください。

▽世界宣教局ホームページに宣教師たちの証しがアップされます。今回は葛田就子宣教師です。

〔IWF関係〕

▽11月24日(火)に秋のIWF理事會をZoomで開催しました。
▽IWF基金は申請すればIWFの宣教師を教会に招くための支援、また教会堂の修理や改築費用の融資のために用いることができます。お問い合わせは梅田登志枝師まで。

▽ザック・マッツ宣教師ご夫妻は11月末にアメリカに報告のため帰国されました。

■教育局

〔教育部・信徒教育課〕
▽各教会で自由にご活用いただける信徒向け聖書講座(無料)を提供中。

内容「使徒の働き」の学び
講師 岩上敬人師(JEA総主事)
第2回目の講義の動画が、教団HP教育局のページにアップされています。(詳細は富士見台教会 野田師まで)
▽青少年部・教会学校課
▽教会学校課HP(CHURCH SCHOOLふれんず)上に、クリスマス関係の塗り絵紙芝居「ザリヤとエリサベツ」「マリアと

ヨセフ」を新規にアップ中。またアドベントカレンダー作成ガイドなど、新たな応援教材等もアップ中です。ぜひご活用ください。

■聖宣神学院

▽BTCリトリートは中止です。
▽2020BTCフォーラムオンライン 要事前申込、参加費無料日時 12月29日(火) 14時～17時

テーマ「献身者を祈り求めるホンネ広場」今までを振り返って、これからを展望して」
お問い合わせ リトリート委員会 (メール bcforum@kops.jp)

▽神学院祈り会は行いません。

消息報告



▽先月号2ページに掲載された信徒代議員名簿の内、正しく記載されていない御氏名がありました。誤 井上早苗(長崎)

正 井之上早苗(長崎)

お詫びとともに訂正いたします。

▼住所変更

平瀬愛子師(引退牧師)の新任所は左記の通りです。

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-7-24 救世軍ケアハウス11号

▼スーパードブック「はじめてのクリスマス」が12月12日～25日の期間限定でアップされます。ブラウザで「聖書チャンネルBRIDGE」を検索すると閲覧できます。教報PDFパスワード11792